

学界情報

第 39 回米国電気電子学会産業応用部門年次大会 : IAS '04 The 39th IEEE Industry Applications Society Annual Meeting: IAS '04

2004 年 IAS Annual Meeting が 10 月 3 日～7 日まで、米国シアトル市の The Westin Hotel で開催された。シアトルは自然の美しさと都市の利便性から、全米で住みたい土地ナンバーワン、市民に占める大学卒業者、大学院の学位保持者の割合が全米で最も高いという。さらにイチローで有名な大リーグ・マリナーズ球団の本拠地である。イチローが 84 年ぶりに大リーグの年間最多安打を破るかどうかが、多くの日本国民が見守っていたが、IAS の前日に新記録を打ち立ててくれた。当地の新聞スポーツ欄はさぞやイチローの記事で満載かと期待したが、今シーズンでマリナーズを引退する E. Martinez の記事で満載であった。

1990 年の IAS が当地の同ホテルで開催された。14 年前と比較すると論文数は今回が 411 と 100 件ほど増加している。筆者の発表した IPCC (変換器制御) 分野で見れば、power quality control 関連の発表が激増している。また日本企業からの発表が極めて少なくなった。日本やヨーロッパでの国際会議 (IPEC や EPE) に比べて対象範囲が狭いこと、IPCC や IDC では完結された論文が多く、以後の発展につながる未完な論文が少ないこと、などが一因と考えられる。

IAS 国際会議には本年から二つの変化があった。

- (1) 先ず registration fee が二本立てとなった。学会会場のホテルの宿泊者は 500 ドル、会場以外のホテル宿泊者は 800 ドルである。IAS が会場ホテルの客室をあらかじめ囲いこみ予約しているので、宿泊者が少ないと、赤字になるというのが理由である。IAS は他の国際学会と比較してサービスが悪い。たとえばレセプションで料理はお粗末、ビールは自前で買えという。市価の 3 倍程度の値段で売っているのだ (今回は少し違ったが)。今回、何人かの外国の研究者からも「IAS はこの会議を business (商売) でやっている」という声を聞いた。
- (2) 講演時間が 1 件 30 分となった。従来より 5 分程度長くなったのはいいことだ。しかしその反面、講演が 8:00～12:00, 13:00～17:00 となり、朝は早く、昼休みは短くなり、窮屈になったことはいなめない。

この記事を書くために、Conference chair と Industrial power conversion systems department に所属する 4 つの committee の Program chair に statistics を送ってくださるようお願いした。そのうち 3 氏から回答をいただいたので以下の表に各国からの論文数等をまとめる。今回は 2000 年のローマ大会について投稿論文数が多かったということで、IPCC と IDC は極めて狭き門であった。PEDCC はほとんどがアクセプトされている。日本からの論文数は多いが中国の追い上げがうかがわれる。

各国の論文発表数

Committee	IPCC	IDC	PEDCC
1	USA 31	USA 19	USA 25
2	China 8	Japan 7	France 10
3	Japan 7	UK 6	China 3
	Brazil 7	Italy 4	Japan 2
	UK 4	Germany 3	Italy 2
	Korea 4		Netherlands 2
No. of abstracts	183	125	51
Accepted	84	56	48
%accepted	46	45	94

IPCC: Industrial power converter committee

IDC: Industrial drives committee

PEDCC: Power electronics devices and components committee

特記事項として、赤木先生が IEEE IAS outstanding achievement award を受賞された。難波江、松瀬両先生についてわが国で 3 人目の受賞である。さらに Transaction prize paper awards も受賞された。赤木先生曰く「盆と正月が一緒に来た」。Congratulations!

ありがたい特記事項。10 月 9 日夕刻、台風 22 号が関東に接近、成田到着便はすべて着陸できず、関西や福岡空港に退避した。あいにく 3 連休中でホテルはどこも満室。筆者は関空のロビーで一夜を明かした。その後、9 日に帰国できたのは極めてラッキーだったことがわかった。米国西海岸発の成田到着便は軒並み欠航となり、シアトルに取り残され、さらに 4 日間も滞在を余儀なくされた先生方もおられた。ご苦労さまでした。

2005 年の IAS は 10 月 2～6 日、ホンコンで開催される。IAS 会議は基本的に北米大陸で開催、2000 年のローマが筆者の知る限り北米大陸を離れた唯一の例で、アジアでは勿論次回が最初である。See you next year at Hong Kong!

福田 昭治 (北海道大学)
(平成 16 年 11 月 6 日受付)



IAS President K. L. Peterson から statue を受け取る
赤木先生